

おふ
たいま

公私ともに公務員であれ



綾部市市民環境部長

四方慎行氏

市職員として、最初に配属されたのが国民健康保険課だった。「電算化の前で、職員4人で電卓を使い国保の保険料の計算をやっとりました。おかげで電卓を使うのは早うになりました」

理科の教師になりたかったが、そちらの夢はかなわず地元綾部市の職員に。市民・国保課長を4年やった後、この春、同課など四つの課を束ねる市民環境部長に就任した。「部長になったばかりなので、立ち位置がまだよく分からない」と謙遜するが、公務員としての自分には厳しいものがある。

公務員という仕事は、公私とも『公務員』でないと務まらないと話す。「地元自治会やPTAなどの役が回ってきますが、断ったことはありません。公務員は断れる立場にはないと思ってます」

仕事の守備範囲が広くなり体調管理も求められますが、健康法は？

「5年前から、妻に勧められて、炭水化物をとらない糖質制限をやっとります。血糖値が悪いわけではないんですが、糖尿病にならんようにと始めました」。最初の2年間のご飯を食べたことはなかったが、今は土・日曜や、職場での昼食のご飯（100g[㊤]）はOKという。

市民に各種の健診を呼びかける市民・国保課長という立場上から昨夏、禁煙とウォーキングに挑戦したが、禁煙はあえなく失敗。一方のウォーキングは朝夕、自宅から市役所までの約八千歩を実行中である。

「ところが、私、市営バス（愛称「あやバス」）の利用を市民に呼びかける業務も担当になりました。家の前をバスが走ってまして。ウォーキングも続けていきたいんですが…。笑顔で話を続ける四方部長だが、なかなか気苦労が多そうである。

中学・高校でバレーボールの選手だったこともあり、現在、綾部市バレーボール協会の理事長である。また、地元のママさんバレーの監督を27年間務めており、週1回は一緒に汗を流すという。

「楽しみといえば、妻と京都、阪神競馬場へ行くことですかなあ。この時ばかりは早う目がさめます」

厳しい経済状況や消費税の引き上げなどを考慮し、一人当たりの国保料は、市の国保準備基金の活用などで2年連続で据え置きとした。

「小さいまちですんで、四六時中プレッシャーはあります」。その言葉に、市民が安心して暮らせる街にしたいという四方部長の覚悟を感じた。

座右の言葉を書いてもらった。大学紛争時代に知った言葉だという。

力及ばずして倒れることを辞さないが
力尽くさずして挫けることを拒否する